



天高育友会報
 平成22年12月24日発行
 発行 県立天草高等学校育友会
 編集 天高育友会文化広報委員会
 印刷 ワタナベデザイン

昨年度は体育館の改修工事中で文化祭は1日開催でしたが、本年度は立派に完成した体育館で、10月15日・16日の2日間の開催となりました。天候にも恵まれ、思い出に残る文化祭となったのも皆様の目に見える部分、見えない部分での惜しみない御協力の賜と思えます。更に天草西校、倉岳校の全生徒を招き、様々な交流ができ、より充実したものととなりました。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

本年度は天草高校の皆さんが深い絆で結ばれ、一丸となつて発展に繋がるようにとの願いを込めて、「実(みのり)〜みんなで結ぶ絆〜」のテーマを決定しました。全校生徒・教職員・育友会が三位一体となつて、六千羽の千羽鶴を折りました。各人の思いを鶴の中に記し、「みんな」で内に秘めた思いを結果として、千羽鶴による「あまたか四郎」という形にすることができました。また新企画として同窓会関西支部の御尽力を賜り、羽衣国際大学准教授の「JAID」にしゃんた先生をお招きすることができました。先生の御講演で、皆スリランカなどの外国文化や人権意識の学びに感銘を受け、また、素晴らしい落語に感激しました。更に書道部の発表に「おっ」という感動、クラスの発表(ステージ・展示・食品バザー)も創意工夫されたもので素晴らしいものでした。また音楽選択者や一流のピアノ演奏、そして生徒会の皆が2日間の振り返りとしてスライドショーでの「フィナーレ」を作成してくれました。新企画を増やして戸惑いもありましたが、育友会の皆様方、校長先生をはじめ、いつも暖かく見守ってください。先生方、裏方に徹していつも明るく前向きに取り組んでくれました。生徒会執行部、全校生徒の皆さんの力により素晴らしい文化祭となりました。ありがとうございました。

生徒会顧問 田崎 孝文



文化祭を終えて
 文化委員長 2年7組 山田 怜央奈

「実〜みんなで結ぶ絆」のテーマの下、平成21年度の文化祭が10月15日と16日の2日間開催されました。1日目は、JAIDにしゃんた先生の講演から始まり、各クラスのステージ発表、食品バザー、展示発表などがありました。そこで、にしゃんた先生は、壁を楽しく越えていくことの大切さというものを学びました。それは先生自身が初めて日本に来て「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」の3つの壁に立ちはだかれ、そのせいで、上手いかなんかがありましたが、それらを越えるために自身で新たな自分に出会うことが出来るというような暗示をかけて、ブルース思考に日本で生活されて、落語大会で準優勝を取るなどの功績を残したと話を聞き、自分で工夫して物事を考え実行していけば、成功することが出来るんだなと感じました。また僕は、目の前にある目標である「文化祭を無事成功させる」というのを改めて思い返し深く心に刻みました。クラス発表では各クラスが思い思いのパロディをもじりながら笑いを提供してくれました。食品バザーでは、クラス・部活動・定時制・育友会と多くの方々の協力を受け、工夫を凝らした美味しいものでお腹を満たすことができました。また、文化祭でバタバタし過ぎていて悪いのが欲しかった僕は、茶道部のお点前を頂戴しに行きました。そこでは、風炉先屏風などがあるすごく落ち着いた雰囲気の中で、日本の文化の醍醐味にあたるものに触れることができ嬉しく感じました。展示発表では、準備期間が短かったにも関わらず完成度の高いものが出来ていて感動の連続でした。2日目は演劇部の発表、食品バザー、展示発表、有志発表などがありました。演劇部では、自分は演劇部だったためしつかり伝え、皆さんに楽しんでもらおうという意識の下「贋作のマクベス」という日本の演劇を行いました。その劇後、有難くも多くの人から好評を頂き、達成感を味わうことができました。こうして多くのイベントがたくさん詰まった今年の文化祭で、まだまだ書ききれないことありますが、今年の文化祭は、テーマにもあるように生徒を始めとする先生方や地域の方々との絆が結ばれたのではないかと感じました。このように出来たのも皆様のおかげです。ありがとうございました。これから文化祭の経験を活かし、天高生徒それぞれが考えて行動し天高生らしさを出して、天高の発展につながってほしいなと思います。